


銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



1月の銅の概況及び2月の見通し (3)

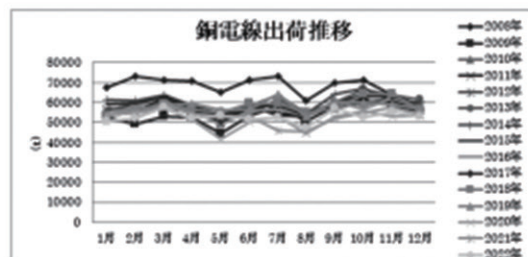
予想レンジ		
LMEセツル	8,000-9,500ドル	●
建値	109万円-132万円	●
為替	130円-135円	円安

(1か月間TTM)

【日本電線工業会発の出荷速報(推定)】

前年比-3.9%の5万5,582 t。

内訳は国内が-3.1%、輸出が-39.8%。



出典 日本電線工業会

【見通し】

【自動車】

12月の自動車生産が-1.3%。1月国内販売台数が前年比+10.8%。生産が下げ止まりつつあり、それに伴い販売が回復の兆しあり、今後に期待。

【伸銅品生産】

12月伸銅品生産量の速報値は5万6,170トン、4か月ぶりに6万トンを割った。また、前年同月比10.2%減少し、12か月連続のマイナスとなった。2019年20年以來の長期減速となった。

自動車関連の部品在庫の消化が進んでおり、ここからの需要増加を期待している。また、部品の滞りが減り、建設など大型物件の再開が進んでいる。関連する伸銅品の需要が見えてきた。

【電線】

前年比-0.9%の5万3,300 t。内訳は、国内-11.9%、輸出が+263.8%。輸出が大幅増、今後に期待。

【銅 輸出入】

2022年12月の日本からの銅スクラップ輸出量は2万

7,967トンだった。前年同月比4.4%減少し、2か月ぶりにマイナスに戻した。前月は、5か月ぶりに3万トンを超えたが、再び戻している。それでも、2022年1年間、3万トン手前で毎月安定した量で推移していた。

日本からの銅スクラップ輸出は、輸出量全体の4分の3近くを中国向けだった。これは、前年の6割弱から大きく割合を拡大させている。また、輸出量2位のマレーシア向けの輸出量は、全体の12.7%を占めた。ただ、こちらは、2年前の32.1%、前年の23.7%と年々割合を縮小させている。

【スクラップ景況予想】

流通【一次問屋】在庫は今月銅建値が114万から一時127万と上昇したこと、米FRB利上げによる下落警戒や年末要因から2月は在庫薄。需要面に関して世界的なコロナ規制の緩和に伴う需要、生産の大幅回復に伴い重要は急増するものと思われる。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。①米の金融政策、②米中関係の動向。

①に関しては、米の金融政策に関しては年末からFRBの利上げ緩和観測が台頭し直近の利上げも0.25だったが1月の米雇用統計は雇用者数が市場予想を大きく上回って伸びた。失業率も半世紀ぶりの水準に低下し、FRBが「ハト派」に転換するとの期待が薄れた為今後も引き締めが続くのではないかと。

②に関しては、米国上空を浮遊していた気球問題で中国側が自国のモノと認めたことや米国側もプリンケン氏の訪中を取りやめでなく延期としたことから双方衝突は望んでないとの認識。ただ気球解析の結果 軍事偵察であれば悪化は避けられない。

これらを踏まえた2月の銅価格は8,000-9,500ドル(セツル)との予想。ドル円値は130円-135円(TTM)台を予測。銅建値に関しては109万-132万円程度と予測している。

(「1月の銅の概況及び2月の見通し」おわり)

減摩合金・各種ハンダ
鉛滓・錫滓の精錬

中川金属精錬所

代表者 中川 譲 治

〒556-0022 大阪市浪速区桜川 1-6-22

TEL 06-6561-3759(代表)

Nikkan Kinzoku Web Journal



https://nikkankinzoku.co.jp/

PW: nikkin202302

ログインにはパスワードが必要です。
パスワードは、随時更新いたします。